

公募メンバーからの意見発表について
(第6期公募メンバー 2回目)

氏名	頁
小林 明音	… 1
藤井小十郎	… 2
宮下 勲	… 3
吉川 舞	… 5

意見発表様式

氏名	小林明音（NPO 京都景観フォーラム、七條大橋をキレイにする会）
テーマ	社会資本整備における住民参加について
意見	<p>私は、大学で土木を専攻し、技術職として富山県庁に就職しました。富山県庁では、砂防や道路計画に携わり、発注者として土木に関わりました。公務員として「<u>目の前の仕事は誰のためにしているのか常に思い浮かべる</u>」という姿勢は、今の私のワークライフにおける指針になっています。</p> <p>5年務めた後、設計コンサルタントで主に住民参加型社会資本整備（当時はPI（Public Involvement））の経験を積みました。</p> <p>公務員の時の課題だった、「<u>公共事業における住民参加</u>」について、技術的手法を実践的に学び、今の私のノウハウの基礎になっています。</p> <p>5年務めた後、フリーランスになるとともに、京都に住み、今に至ります。これまで、京都市の外郭団体でまちづくりコーディネーター、市民と行政の中間支援を行うNPOの事務局等で、まちづくりのアドバイスなどを行っていますが、常に仕事にしているのは「<u>行政と住民の間</u>」という立場で相互理解を進めるため立ち回りです。</p> <p>京都に住み始めてから、一人の住民として、鴨川に架かる橋（七条大橋）の魅力を広める活動にも参加していますが、橋は縁の下の力持ちでもあり、まだまだ住民の注目度は低いと感じていました。</p> <p>一方、この鴨川府民会議に参加させていただき、一番学んだことは、鴨川は住民から大変注目度の高い公共事業だということです。</p> <p>鴨川は、京都の大切な公共財です。</p> <p>「行政と住民」「京都府（川）と京都市（橋）」「右岸と左岸」「上流と下流」「人工と自然」、様々な立場の違いはありますが、この鴨川府民会議の場が、未来のためにより良い鴨川を残すという思いを同じくして、<u>鴨川にふさわしい住民参加の場となるよう期待</u>しています。</p> <p><提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが鴨川を理解しやすいよう住民目線の発信に努める ・未来に残すべき鴨川らしい景観について共通認識を持つ ・様々な立場の方の意見を十分出し尽くせる会議となる

意見発表様式

氏名	藤井 川十郎 7シイ コシヨウ																														
テーマ	沿水と景観																														
意見	<p>景観</p> <p>岸の街中を流れる鴨川(加茂川)は岸の顔である。今世界の中から観光で入浴者は増え続け、洛者は勿論地元民も含め、小と鴨川をリテ足運山の風光明媚な景色を覚える。あなたもぜひ安堵を覚える。水はほどに永長先人達の努力、そして増えたトイレによるものもある。観光目的の人は先に三季、四季大橋の橋上から眺め、この次上った箱庭の眺望に翻弄される。又上流に目を向けると、加茂川地大橋橋脚に護岸を主に堤には大樹を含め四季折々の木々植栽が在り。春の桜並木、秋の紅葉は、自然の美と世界に通じる文化遺産であろう。</p> <p>美化問題</p> <p>既存する設備、この箱庭トイレはまだ未だこの今特に三季大橋たむけのこの問題とトイレあり、やうとうしく見え、環境で人の心理と、この水と箱庭の環境である。この箱庭に美的サービスに勝れた有料トイレを作らば、この箱庭を又た物と望む。大地は岸の一部と初道の地下部を使い構築すべきと思う。</p> <p>沿水と洪水</p> <p>今の異常気象で未曾有の大洪水が予想され、万一発生した時、下流に平地の巨大な一(湖池)を造り大水に熟知すべき、人の命を安全と守る。昔に又以前から世界のテーマである地球温暖化を今直ぐ国民一体で熟知すべきである。</p>																														

意見発表様式

氏名	宮下 勲
テーマ	鴨川長期ビジョンを作成し活動推進の基盤とする
意見	<p>私は第5期・第6期と鴨川府民会議のメンバーとして参加させていただき、鴨川の歴史や現状と課題をより深く学習することができました。</p> <p>当初「鴨川生息物の環境改善」特にアユが飛び跳ねるあるいはホタルの飛び交う鴨川を実現したいとの思いで応募したのですが、今は思っていた以上に多くの課題があることを認識するに至りました。</p> <p>そこで任期満了に当たり現在特に認識している課題をまとめて提言をさせていただきます。</p> <p><u>鴨川府民会議で「10年後の鴨川長期ビジョン作成」</u></p> <p>現在もいろいろ議論提言されていますが、特に下記3点を中心に10年後の鴨川の姿を長期ビジョンとしてまとめ、一つの目標として提言されてはいかがでしょうか。</p> <p><u>1. 治水対策ビジョン</u></p> <p>まず第1は市民生活に大きな影響を与える治水対策です。</p> <p>特に鴨川上流の森林被害回復と保全が急がれるところですが、これは育成に時間と費用もかかるので長期計画のもとに推進することが望めます。</p> <p>京都新聞に掲載されていた記事ですが「森でシカが増えると、川の魚は増えるか減るか？」(京都新聞 2019.7.7 掲載)で結論は河川に土砂が流失してアユは減少し同時に川を浅くし洪水の要因にもなるということです。</p> <p>この課題は既に行政でも府民会議でも認識して取り組まれています。国有林市町村整備計画を土台に鴨川下流部も含めて継続して進捗状況を確認し提言していくことが肝要と思います。</p> <p><u>2. 生態系との共存ビジョン</u></p> <p>現実鴨川には多くの昆虫、魚、水鳥が生息しています。これらの生息物が豊かに生息しているということは水質水準のメルクマールにもなり水質保全につながります。中州、寄州の課題はありますが、鴨川流域の上流、中流、下流でどのような生息物を保護し育成していくのかの環境改善ビジョンは市民に夢を与え同時に鴨川を訪れる人々の癒しの場につながっていくと思います。現在 アユの遡上、ホタルの育成など部分的には取組がなされていますが、さらに府、市関係機関、各団体や知識人などが連携をして長期ビジョンのもとに時間をかけて取り組んでいく課題だと思っています。</p> <p>その中に私の念願のホタルの乱舞する鴨川・みそそぎ川が実現することを期待したいところです。</p>

3. 啓発活動の強化推進計画ビジョン

私は最近まで鴨川河川敷が禁煙という事を知りませんでした。これは一例ですが鴨川は広く市民に愛されていますが、その歴史や治水対策、生態系の実態、また鴨川の課題と取組状況などまだまだ市民一般に認識されていないと思います。私の周辺でも京都府民会議の存在すら知らない人が多い状況です。ゴミ問題にしても結局は市民の意識次第だと思います。

対策として

①「わたしたちの鴨川」（京都府）の改訂版発行

現在「わたしたちの鴨川」が発行されていますが、これは個人的には優れたものと評価しています。これを土台に10年後の鴨川ビジョンも加えた改訂版を作成して広く配布啓発。

②インターネットの活用推進

鴨川を訪れた人にスマホなどで鴨川探索情報や環境情報などを誘導掲載して美化活動など認識強化をはかるためのシステム構築。

③テレビ放映、新聞記事のさらなる活用推進。

これまでたまにテレビ放映や新聞報道がなされましたがその反応は大きく、知人などからも関心を持ってもらいました。

④鴨川観察活動のさらなる推進（野鳥・水中生物観察会、清掃活動、掲示板での啓発）
広く市民に広報し鴨川に触れる機会を充実していく。

以上これらの対策と実行には時間と多額の経費が掛かってきます。京都府議会に長期ビジョンを示し理解を深めていただくことにより予算計上などを含めて継続的な対応を求めていくことが重要ではないかと思います。その意味で現在の鴨川府民会議の取り組みの方向性は間違っていないと思いますので長期的なビジョンを示し、それをベースに活動されますことを期待しています。

この4年間府民会議メンバーとして活動できましたことは私にとっては大きな経験となり、また鴨川に対する認識も一段と深まりましたことをうれしく思います。

ありがとうございました。

氏名	吉川舞
テーマ	鴨川増水時のオオサンショウウオについて
意見	<p>近年、鴨川では、大型の台風などの影響で大雨が降り、河川が増水することが頻繁にあります。私たち SNS 世代では「増水した鴨川と言えば、オオサンショウウオが打ち上げられている」というのが、ここ数年よく話題にあがっています。</p> <p>大雨で増水したタイミングで鴨川を見に行けば、オオサンショウウオの写真を撮ることが出来る可能性が高く、それを twitter などにあげれば、たちまちバズる（バズる＝人気投稿になる）ことから、危険を顧みずに護岸へ降りる人も見られます。</p> <p>鴨川のオオサンショウウオは、すべてが日本の在来種ではなく、中国種との交雑種だというのは有名ですが、その見分けは、なかなか素人では着きにくいのが現状です。日本の在来種である、言ってしまうとプロパーのオオサンショウウオは特別天然記念物なので、文化財保護法で触ることや捕獲することが禁止されているのですが、オオサンショウウオという生物そのものは、水族館や動物園でも飼育している場合も多いことに加え、その珍妙なフォルムがとても魅力的なので、つい調子に乗って写真の撮影をしたり、うっかり触ってしまう人もまれにいますと聞きました。</p> <p>Twitter の情報拡散力はかなりのもので、写真が投稿された直後に鴨川の近隣を歩いていれば、「ちょっと見に行ってみよう」という人も現れてしまうため、もしもサンショウウオを発見した場合には、まず初めにどうすればいいのかを、もう少し若い世代にも周知徹底することが大事なのではないかと思いました。</p> <p>まず、オオサンショウウオを鴨川の護岸で見つけた場合は、触ったり捕まえたりせず、速やかに京都市または、京都府の文化財保護課へ連絡することを、もっと多くの人に知ってもらえるように、ポスターやビラの配布を積極的に行っていくのはどうでしょうか。</p> <p>増水した川の付近を散歩すること自体がとても危険な行為ではありますが、写真を撮ろうと近づくことで、万が一噛まれてしまうとどれくらい痛</p>

いのかなど、オオサンショウウオにむやみに近付くことの危険度も合わせて、もう少し多くの人に知ってもらえる機会があれば良いと思います。

意見発表様式